

ほかに、「<sup>たごやくしどう</sup>田子薬師堂」ともよばれる<sup>じょうふくいん</sup>常福院薬師堂は、国の重要文化財・建造物として価値がみとめられています。本尊の<sup>やくしにょらいざぞう</sup>「薬師如来座像」は、高さが174センチメートルもあります。



▲田子薬師堂

今の<sup>めいじ</sup>新鶴村は、明治31年に<sup>にっ</sup>新田村、<sup>つるのべ</sup>鶴野辺村が合併し、さらに<sup>にしやま</sup>昭和22年に西山村（現柳津町）

の一部（大谷地，市野，上平，二岐）が<sup>へんにゅう</sup>編入されてできたものです。

人口は、昭和30年の6,649人をピークとして、年々へり始め、昭和50年ころから横ばいの状態になっています。平成9年8月では4,292人となっています。

### (3) 新鶴村の土地の様子

新鶴村を空からながめてみると、およそ54パーセントは山林や<sup>げん</sup>原野におおわれていることがわかります。その地形の様子から3つの地域にわけられます。

#### ① 西部山地

明神ヶ岳<sup>れんぼう</sup>連峰の西のふもと、標高689メートルの<sup>たかおみね</sup>高尾峰方面からの沢が「<sup>ふたまた</sup>二岐」で<sup>ごうりゅう</sup>二岐川と合流し、佐賀瀬川となっています。この川の<sup>けいこく</sup>溪谷づたいにできた山間地です。

#### ② 佐賀瀬川<sup>りゅういき</sup>流域<sup>せんじょうち</sup>の扇状地

新鶴村の最も<sup>とくちょう</sup>特徴をしめす地域です。佐賀瀬川が山地から平地に出た所で、流れてきた<sup>どしゃ</sup>土砂が<sup>おうざがた</sup>扇形に積もってできた土地です。このような所を扇状地と言います。